

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア
活動センター
通信 vol.45

(令和3年10月発行)

東京2020オリンピック競技大会開幕・・・

7月23日、とうとう東京2020オリンピック競技大会が開幕した。「実施」か「中止」か、また「無観客」か「有観客」か。東京も緊急事態宣言中であり、政府と専門家との見解も分かれ、世論も意見が分かれた。どちらかと言うと「実施」でも「無観客」という意見が多かったように思う。結局、東京での開催の試合はすべて無観客になった。今回の東京2020オリンピックの問題は、いろいろ政治的な問題が多すぎて「ウキウキした気分でオリンピックを楽しむ」という気持ちにはなれない。だから、開会式は見なかった。見る気がしなかった。開会式前の男子サッカー久保建英の決勝ゴール、女子サッカー岩渕真奈の同点ゴール、ソフトボールのオーストラリア・メキシコ戦の上野由岐子の健闘を見た。そして感激した。でも開幕2日目。内村航平の鉄棒からの落下、瀬戸大也の男子400メートル個人メドレーの敗退。何かを暗示しているような気がした。自分も女子ハンドボールのチケットを入手していた。楽しみにしていた。

しかし、だんだん興味が薄れてきた。結局、都内の無観客が決まる前に払戻しを受けることに決めた。東京開催が決まった時は、あんなにうれしかったのにと残念に思う。



① 川野さん



② 福川さん



③ 清水さん

- ① 仕事、趣味、ボランティアで頑張る
- ② 長崎人は強かばってん！宇都宮で40年！
- ③ 環境問題解決への取り組み！

川野 征雄さん
福川 正勝さん
清水 映夫さん

- 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575
ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

① 仕事、趣味、ボランティアで頑張る

川野 征雄さん

取材：猶原特派員

今回は、仕事バリバリ、そしてその間に趣味、ボランティアにと人生を楽しまれている川野征雄（かわの まさお）さんをお訪ねしました。

川野さんは、現役の会社員時代から自治会の活動に参加されていて、会計を3年間担当されました。その関係で退職後会長に、その後副会長を約8年間務められました。その間の約5年間は、新川の河川愛護会長としても年2回の清掃活動や日常のゴミ拾い活動等と幅広く活動されました。その後、活動の場所を老人会に移し、現在副会長として活躍されています。



お仲間が老人会に入会されたので、勧められて入会されたそうです。現在は、コロナの影響で活動が制限されていますが、例年ですと4月の花見・お楽しみ会、年2回の1泊2日の親睦バス旅行（主に近県の福島・群馬・長野の温泉地）、9月の敬老会、12月の忘年会の



運営、宇都宮市老人クラブ連合会でのスポーツ大会、歩け歩け大会の参加、そして定例の輪投げやグラウンドゴルフの運動と色々な行事を行っていました。また、地元での幅広い人脈を生かしてお茶飲み友達での交流、さらに、単身者の方が多いのでその方々への見守りや話し相手として日々活動されています。最近では、コロナの影響で外出を控える方が多いので、特に注意して見回りをされているようです。

川野さんは、定年退職後も会社員時代の豊富な経験（福利厚生関係）や資格（危険物取扱者・ボイラー技士等）を生かしてご活躍されており、現在も週5日勤務で色々な業種のお仕事をされています。ただ、当時とは環境も立場も変わり、対人関係で神経を使いストレスもあるようです。

このように仕事にお忙しい川野さんですが、趣味はドライブです。退職当初は、バイク仲間と各地にツーリングに出掛けていました。川野さんの時代は高校生まではバイク、社会人になってからは車に変わる人が多い中、ご自宅の近くにハーレーを扱うバイク店があったため、次第にバイクにのめり込み、時にはケガをしたり転んだりして次第に運転技術を磨き、自動車にない魅力に惹かれていったそうです。最近では仲間が減ってきたこと、大型バイクであることや年齢等を考えて、昨年からは自動車に戻ったようです。現在は、月1回程度ドライブを楽しまれています。

また、仲間から声をかけられて色々なボランティア活動をされています。カーポートや物置をご自分で作られたように、器用で親切な川野さんを当てにしている人が、多いように感じました。お話をお聞きし、現役時代から地域デビューされ、周りから頼りにされてきた川野さんを羨ましく思いました。ますます、お元気でご活躍していただきたい方です。

②長崎人は強かばってん！宇都宮で40年！ 福川 正勝さん 取材：肥後特派員

福川正勝さんを五代2丁目のご自宅にお訪ねしました。今回、福川さんとお会いした時は全く初対面という感じがしませんでした。旧知の間柄のようにお会いできました。「なんでだろう」と思いながらお話をしていましたが、だんだん、その訳が分かってきました。

福川さんは全てが自然体です。物事に動じない。自分の信念のままに生きている。言葉を変えれば、頑固と言う事でしょうか。そう感じました。福川さんにご出身を尋ねました。長崎県の杵岐だそうです。九州の人間なら憧れる、自然に恵まれた海産物の宝庫です。ウニも名産です。いい意味で九州の人間らしいどっしり感の持ち主です。そして、自分を表に出さない控え目な方です。常に人を立てる方ではないでしょうか。ボランティアを始める動機やシルバー大学校に奥様と一緒に入学する時の事を伺っても「暇だから女房について行っただけ」と言われます。福川さんは現在80歳になられました。転勤で宇都宮に来られて40年。仕事を終え17年余り。ずっと地元での活動やボランティアで忙しくされ、さらに奥様とシルバー大学校に入学してハーモニカ、写真などの趣味を広げてこられました。その合間には、奥様と車で北海道から鹿児島・佐多岬まで海岸線を日本一周されました。凄いバイタリティです。年齢を感じません。「今でも痛いところはどこもない」とおっしゃいます。

今、福川さんは「NPO 法人ナルク栃木『とちの実会』」に所属されボランティア活動に活躍されています。この団体が行っている活動は、まず会員同士の助け合い運動です。これは年間3千円で会員になります。その上で話し相手や庭の手入れ、買物、病院の送迎等の仕事を有料で請け負います。また、地域への社会奉仕もやっています。観光地大谷の清掃活動、足尾の緑化植樹、そして学童保育支援や独居老人への声掛けなどを実践されています。

特に印象に残ったのは、塩谷町でのイノシシ除けのネット張りの話です。幅1m高さ2mのネットを8kmも張っていく大変な重労働です。

福川さんは、ずっと通信事業設備の会社に勤務されていました。アンテナを製作し鉄塔に設置していく仕事です。国内だけでなく、開発途上国の通信設備事業にも関わってこられました。それぞれの国家の中枢を担う事業ですから、困難を極めました。死に目にあったこともあったそうです。1つ目はイラクでの勤務の時です。ちょうどイランイラク戦争が始まり戦禍を逃れてヨルダンに逃げました。2つ目はボルネオ勤務の時です。ジャングル間の移動で乗



っていたプロペラ機がエンジントラブルを起こし、プロペラが止まったり回ったり「墜落の恐怖を味わった」そうです。また、鉄塔も便利な市街地に設置する事はありません。道なき山間部に何基も設置します。それぞれの専門家と現地の方とチームを組んでの仕事です。会社に在籍中は20数か国を回られたそうです。

現役時代をはじめ、楽しいお話をたくさん伺いました。また、どこかでお会いしたい方だと思いました。

③ 環境問題解決への取り組み！

清水 映夫さん

取材：細川特派員

近年、SDGsという言葉を見聞きするようになりました。SDGsとは「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんで2030年までに解決していこう」という持続可能な17の開発目標のことです。

以前から、環境問題に取り組みられている、清水映夫（しみずてるお）さんにお話を伺いました。清水さんは、製紙会社に勤務されていた当時、田川の汚染が社会問題になり汚染原因の排水処理をする子会社が必要となったため、その会社に出向を命じられ、後に社長に就任されました。その頃、清水さんはアメリカの生物学者レイチェル・カーソン著「沈黙の春」という本と出会いました。その本は、害虫駆除に用いたDDTを始めとする農薬などの化学物質の危険性を訴えた、環境汚染への警告の作品です。アメリカではこの事がきっかけとなり「環境保護庁」の新設や「環境保護運動」が始まったと言われています。清水さんは、この本に深く感銘を受け、地球温暖化をはじめとする環境エコロジーの必要性を感じ、就任した会社において無農薬での食物栽培や有用微生物を活用した培地の開発に取組み、「食の安全」農薬問題を県の農業試験場や大学との共同研究で商品開発に成功され、日刊工業新聞社発行の「日本の環境ビジネス優良213社」にも選ばれました。

清水さんは、最近の異常気象について早くから警鐘を鳴らしていらっしゃいます。京都議定書（温暖化に対する国際的な取り組みのための削減目標）が合意されたことから、国の地球温暖化防止の推進に関する法律に基づき、平成15年に県から「地球温暖化防止活動推進員」に委嘱され地球温暖化の危機についての講演会や小中学校の授業などを行っていらっしゃいます。特に、清水さんが毎月発行されている「地球温暖化防止活動推進だより」は今年2月に第200号を数え、現在も「地球の危機・生命の危機」を分かりやすく多方面に発信しています。この様な活動について、環境省より「平成23年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞され、更に17年間啓発活動を続けてこられたことについて「とちの環県民会議」において、平成20年の表彰に続き「特別表彰」を今年受けられました。また、清水さんは防犯活動にも目を向けておられ「宇都宮東警察署防犯連絡協議会」などの会長を歴任され、今も地域の安全を守るためのパトロール・児童の登下校時の見守り、声掛けを行っていらっしゃいます。それらの35年間にも及ぶ長い防犯活動について、数々の表彰や感謝状を受けられていらっしゃいますが、特に去年、警察庁長官から「防犯栄誉金賞」を受賞されました。

清水さんは、「相田みつを」さんの言葉『一生勉強・一生青春』を座右の銘になさっていて、「青春とは人生のある期間を言うのではなく気持ちの持ち方」とおっしゃいます。趣味は、ピアノ・チェロ・コーラス・声楽とありますが、今は健康第一、声を出すことに熱中しているとおっしゃいます。また、コーラス練習後の反省会も楽しみとか・・・団の名前はコーロ・オステリア・・・イタリア語で居酒屋!!ナルホド!!コロナ終息が待ち遠しいですね。

